

三月は、桃の節句がある。これを通ぎると、本格的に春の到来を感じる。降り注ぐ陽ざしは、目に見えておだやかになり、いつも見馴れた街並ですら、二月とは違い、あたたかさが漂っているように思えてくる。

特に、桃の花のあざやかなピンクは、三月の象徴かもしれない。しかし、日本人が桃のピンクに抱いているイメージは他の木の花へのイメージほど、崇高でも重々しくもない。桃のピンクは、花の中で、それほど高く評価されていないのである。

万葉集、古今集、その他和歌の選集でさまざまな植物が登場する中、桃の花は非常に影が薄いという。

梅のりんとした気位いの高さ、他の者を寄せつけない強固な姿勢。花のあでやかで、しかもその中に上品さを漂わす姿それらに比べ、桃の花は、一段も二段も下がった所にいるのである。桃の花は

諸民の花、手を伸ばせば、触れることのできる親しみやすさを備えている。

コロンとした花のつき方は、かわいらしさと、幼なさを感じさせる。

床の間に生けるよりも、茶の間で見た花である。

桃の花のピンクは、他のピンクに比べ、幼なさのシンボルカラーのひとつだ。

桃の花の形が幼なさを感じさせ、それが人々のイメージと結びつき、そのピンクを幼なく感じるのか、よくわからない所だが…

しかし、桃の花と深いかかわりのない西洋文化の中でも、あの桃の花のピンクは、子供ばい色なのだ。子供ぼさとあのピンクには、どんな共通性があるのだろうか。

机の上の桃の花をながめて、ふと思

(誉)

幼児の教育 第八十五巻 第三号

三月号 ◎

定価三五〇円

昭和六十一年 二月二十五日 印刷
昭和六十一年 三月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします

* 万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。